

富山市中心市街地活性化基本計画(案)のパブリックコメントにおけるご意見と市の考え方

No.	意見の要旨	意見に対する考え方
1	<p>中心市街地へ足を運ぶには、それなりの理由(動機付け)が必要である。例えば、日常的に必要な物は、近所のスーパー等で手に入るため、中心市街地には、値段が高くて良い品が手に入る店があるとよい。</p>	<p>基本計画では、中心商店街を対象に、空き店舗へ新たに新店舗に出店する場合には、店舗改装費や店舗賃借料等に対し支援する「富山市新規出店サポート事業」を位置付けております。</p> <p>引き続き、魅力があり利便性の高い商業集積に向け、コンパクトシティの中核を担う都心地区にふさわしく、市民ニーズが高い業種の出店を促すため、支援してまいります。</p>
2	<p>「おでかけ定期券」は、大変役に立っているが、降車時間(9:00～17:00)の制限がある。この制限は、平日の通勤通学に支障のないよう設けられていると思うが、休日は支障がないため、制限を撤廃できないか。そうすれば、夜の外出も増え、活性化につながると思う。</p>	<p>「おでかけ定期券事業」は、公共交通の利用促進や中心市街地への来街者増加を図るための施策の1つであり、平成19年策定の第1期基本計画以来、中心市街地活性化のための事業として計画に位置付けております。</p> <p>「おでかけ定期券事業」の実施にあたりましては、交通事業者のご理解とご協力を得て、交通事業者の運営に支障のない日中の時間帯に限定して行っております。</p> <p>そのため、おでかけ定期券の利用時間の延長につきましては、交通事業者の理解が得られないことから、困難であると考えております。</p>
3	<p>かつて、中教院前には夜店が並び、家族で出かけていた。中心市街地では、集客力のある効果的なイベント(例えば、とれたての鮮魚や野菜、果物市など)の開催が必要である。また、イベントのPRも重要である。</p>	<p>本市では、中心市街地において、総曲輪にある全天候型の広場であるグランドプラザや富山駅南北自由通路、富山駅前広場などを整備してきました。これらの施設では、年間を通じて、民間事業者やNPO等が主催する様々なイベントが開催されております。</p> <p>また、大手モールでは、飲食や雑貨、野菜などのお店や移動販売車が集まるマルシェ「越中大手市場」が毎月開催され、多くの方々が訪れています。</p> <p>これらのイベントについて、より多くの市民に認知していただき、中心市街地を訪れるきっかけとなるよう、SNSも活用しながら、PRに努めてまいります。</p>

No.	意見の要旨	意見に対する考え方
4	<p>中心市街地を活性化するには、まず富山市のことをよく知り、その良さを PR していくことが重要である。</p>	<p>基本計画では、「シティプロモーション推進事業」を位置付けており、富山の魅力を市内外に発信し、認知度を高めることで選ばれるまちを目指し、市民等が本市の魅力を撮影した写真とキャッチコピーで表現したポスターを街なかに設置する「AMAZING TOYAMA プロジェクト」や、機内シェフや客室乗務員が富山の食や文化の魅力を発信する ANA グループとの連携事業、富山市のオリジナルキャラクターである「私立探偵ペロリッチ」による市の PR 動画の配信など、シティプロモーションを展開しております。</p> <p>引き続き、こうした様々な手法や機会を活用することで、本市の良さを PR を行ってまいります。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中心市街地の活性化は、周辺地域の活性化があって初めて成立する。「串と団子」の理論は、周辺地域の拠点(団子)と公共交通(串)で連なり、共に活性化するという理論であり、周辺地域と中心市街地は共存共栄である。 ・ 宅地を求めて郊外に分散し、公共交通や道路整備が追い付いていない。車からのモーダルシフトがほとんど進んでいない。中心部偏重の考え方は改めるべきではないか。 	<p>本市が目指す「公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり」は、都心部(中心市街地)を中心とした一極集中型の都市構造ではなく、公共交通(串)を軸として、その沿線各地域の生活拠点(団子)ごとに日常生活に必要なサービスを確保することで、駅等を中心とした徒歩圏に住みたいと思える市民を増やす誘導的手法により、全市的なコンパクト化を推進し、市街地の拡散に歯止めをかけ将来にわたって持続可能な都市を構築するものです。</p> <p>また、中心市街地は、面積の割合では市全体の 0.4%(約 436ha)ですが、市税収入の約半分を占める固定資産税と都市計画税の税収のうち、約 22%を生み出す重要な地区であります。中心市街地への集中的な投資は、中心市街地の地価を上昇させ、税収の確保につながり、その税収は、郊外や中山間地域の事業にも使うことができることから、税の還流の観点からも市域全体の発展に効果的であると考えております。</p> <p>今後も、ぶれることなく「富山型コンパクトなまちづくり」を継続し、深化させることで、この政策の効果を全市域に行きわたらせていけるよう取り組んでまいりたいと考えております。</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北は岩瀬浜から南は富山 IC、西は西富山駅から東は越中荏原か三郷の間で、電車やバスの運賃を一律 210 円にしてはどうか。そうすれば、中心市街地へ出る人の流れが公共交通にシフトするのではないか。 ・ 市内電車を稲荷町駅で地鉄本線に接続させ、地鉄本線では越中荏原か寺田、上滝線では南富山か月岡、岩嶺寺まで LRT 化すれば、富山駅だけではなく総曲輪にも直通で出られるエリアが拡大するのではないか。 	<p>中心市街地の活性化には、公共交通の利便性を向上し、利用促進を図ることにより、回遊性を高め、来街者を増加させることが必要であると考えております。</p> <p>公共交通の利用促進に向けた利便性の向上については、様々な方策があるものと認識しておりますが、引き続き、関係事業者との協議を含め、総合的に検討してまいりたいと考えております。</p>

No.	意見の要旨	意見に対する考え方
7	<p>大学病院が中心市街地から遠すぎる。市内電車沿線に移転させるくらいのことしないと定住促進は難しいのではないか。</p>	<p>本市では、中心市街地において、これまでに「角川介護予防センター」、「まちなか総合ケアセンター」、「富山まちなか病院」を整備し、介護予防や健康寿命の延伸、在宅医療の提供など、健康まちづくりを推進するための行政サービスを一元的・包括的に提供する体制を構築してきました。</p> <p>今後も少子超高齢化が進行する中、乳幼児から高齢者まで、すべての世代が、生涯にわたり居心地よく安心して健康に暮らすことができる環境づくりに、引き続き取り組んでまいります。</p>
	<p>その他、今回のパブリックコメントの対象となる案件以外のご意見(3件)</p>	<p>今後の施策の実施にあたり、貴重なご意見として承ります。</p>